

第2回 秋田市エイジフレンドリーシティ構想推進協議会 議事録

日 時：平成22年10月7日（木） 15時00分～17時10分

場 所：秋田市役所 2階 会議兼応接室

委員の定数：9人

出席委員：9人

1. 開会
2. 秋田市福祉保健部長あいさつ
3. 委員紹介
4. 報告 (1) 前回推進協議会での意見交換の概要、議事内容について
5. 議事

(1) 秋田市エイジフレンドリーシティ構想推進のためのアンケート調査、聞き取り調査結果について

資料1をもとに、事務局から8つのトピックを2つずつに分けて、アンケート調査および聞き取り調査結果概要の説明を行った。

委 員	はじめに秋田市が、エイジフレンドリーシティを具体的にどのようにして実現へつなげていくのかについて確認したい。
福 祉 保 健 部 長	現在秋田市では次期総合計画を策定しており、このエイジフレンドリーシティの実現は成長戦略のひとつに位置づけられている。本年度秋田市の課題を精査し、福祉保健部をはじめ各部局でエイジフレンドリーシティの考えに沿って、事業を打ち出していくことになる。
都 市 整 備 部 長	特別枠として予算は配分にはなるものの、行政予算には一定の限りがあることについては理解していただきたい。
会 長	行政の限られた資源だけでなく、民間やボランティア、NPOなども一緒にエイジフレンドリーシティの実現について考えていかなければ限界はある。その点についても、今後議論していければと思う。なお地域性も考えていく必要があるが、本推進協議会で大きな方向性が決まった後に、それぞれの部局が具体的に対応を考えていく形になるだろう。大切なことは、8つのトピックのうち、とりわけ重要な観点はどれか、あるいはどのような手順で進めるかであり、それをこの推進協議会で進めていく。

○屋外スペースと建物、交通機関

委員 公共交通機関の利便性が低い原因は、ニーズの不一致だと思う。小さな循環バスの運行をうまく組み合わせ、ニーズの高い病院、買物に行きやすいバス路線の確保することが必要ではないか。移動は他のトピックのほとんどの影響があり、足の確保ができなければ、他のトピックの実現が難しい。まずは移動の確保がもっとも重要である。

委員 雄和地区では以前、100円循環バス(ユージュル)が運行していたが廃止となり、現在マイタウンバスが運行している。バス利用者は少なく、日中ほとんど人が乗っていないという状況が見られる。病院などへ行くためには乗り換えが必要で、運賃が高く時間もかかるため、家族の送迎に頼るケースが多い。もっと安く行きたいところを回ってくれる路線バスがあれば良いと感じる。

会長 ここで具体的なバスダイヤについて考えていくことは情報が少なく難しいが、こうした意見を確認し工夫を求めていくことは重要だ。

今後バス事業者だけでない移動のあり方を研究する必要もある。大都市では交通渋滞解消のため、車の乗車人数によって走行できるレーンを制限する取り組みをしている例もある。

委員 近くのお店や病院に行く交通手段がなく、困っていることが一番の問題で、路線バスはその次の問題ではないか。バス停留所まで距離があり使いづらいことも多いため、バス本数が増えても状況は変わらない。福祉施設や学校などが所有する車両を、空いた時間に高齢者の買物支援を行うなど、きめ細やかなサービスを考えていく必要がある。

委員 秋田が車社会であることは間違いなく、高齢になっても車を運転できる人にとって車は手放せない。最近、ゆっくりしたスピードで走行したり、駐車場で行き先に迷っている高齢者ドライバーを目するが、今後はもっと増えるだろう。高齢者ドライバーに対し、イライラせず周囲が温かく見守り、皆が優しい運転を心がけるよう啓蒙運動は必要だ。

○住居、社会参加

委員 高齢者を含む家族のあり方が変わり、老老介護、男性による介護、単身世帯、高齢者のみの世帯といったケースも増えていることから、住まいの問題はこれから最も大きな課題になると感じて

いる。在宅で適切な介護のサービスを受けられれば、地域で暮らすことが可能な高齢者も多いのだが、実際にはシステムがうまく機能していないため老人ホームなど施設に入居せざるを得ない。たとえば秋田市で高齢者専用賃貸住宅が増えているが、入ることができる人がどれだけいるのか疑問を感じる。約10年後には、団塊の世代の多くが75歳以上になるため、住居を基点にしたシステム作り、新しい集合住宅のあり方について考える必要がある。また、ハコモノだけでなくマンパワーの育成も非常に重要であり、社会参加やボランティアについても合わせて考えなければならない。

会長 今の意見には、新規でニーズに合わせた形の集合住宅を作る必要性についてと、現にある住宅の改修等をどのようにしていくかという二つの視点がある。

委員 グループホームへの入所の場合、住民票を施設に移すことができるケースと移せないケースがある。高齢者に身寄りがなく、住民票を住居に置いたまま入所したところ、年金の現況届手続きが行われず、突然支給が止まったケースもある。認知症の高齢者、単身で身寄りのない高齢者が増えるなか、安心して暮らすことができる住まいとしての施設が求められている。

社会参加については、アンケート調査結果から、高齢者が気軽に立ち寄れるサロンを求める人が非常に多いと感じた。歩いて行ける範囲に、いつでも誰かがいてくれる安定的な場所があることは、高齢者にとって非常に心強く孤立防止にも効果がある。地域センターやコミュニティセンター、公民館などを活用してサロンの場の提供を検討してほしい。

委員 足立区では、研修を受けた人が高齢者を見守る制度があるとテレビで放映されていた。マンパワーが必要となり大変とは思いますが、もしこうした見守りによって、うまく専門機関などに引き継ぐことができれば、引きこもり、うつ対策に効果がある。秋田は自殺予防に力を入れており、効果が出てきてはいるが、高齢者の自殺は増えている。高齢者が、相談機関にたどり着けない、出かけられない、わからないといったことが原因にあるように思う。

会長 最後のセーフティネットは行政だが、はじめから行政だけに頼るのではなく、そうした民間ボランティアを活用することが大切かもしれない。

委 会	員 長	<p>高齢者の個々の問題を解決するためには、行政だけでなく地域、特に町内会で地域で解決していくようにしなければならない。</p> <p>地域特性によって、手段は変わってくると思うが、何らか地域が受け皿になる必要はあるだろう。</p>
------------	------------	--

○尊敬と社会的包摂、市民参加と雇用

委	員	<p>アンケート調査項目にもあった世代間交流については、若い世代が高齢者とふれあう機会がないため、バリアができるのだと思う。有償ボランティアについては、地域通貨を取り入れてはどうか。除雪、ゴミ出しなどちょっとしたことを周囲に依頼することを遠慮しがちな高齢者も頼みやすくなり活用しやすい。</p>
---	---	---

会	長	<p>地域通貨は、商店街など特定の地域で自発的に発行されるもので、行政主導では難しいと考えるが、ボランティア活動の活性化には有効だろう。秋田市で地域通貨を実施しているところはあるのか。</p>
---	---	--

事 務	局	<p>以前話はあったが、現在地域通貨を使っているところはない。他都市では行政主体で地域通貨を取り入れている場合もあるが、うまくいっている例とそうでない例と両方みられる。</p>
------------	---	--

会	長	<p>地域通貨などを活用し、新しい価値観を作り出すことはチャレンジしていく必要があり、今後検討の余地があると思われる。</p> <p>雇用については、「感謝されること」「役割がある」ということが何よりも生きがいや幸福感に通じ、前回推進協議会では高齢者がいきいきと働く事例なども紹介されたが、雇用について意見はあるか。</p>
---	---	--

委	員	<p>前回の会議で、経営する会社のスタッフの平均年齢が60代であることを紹介したが、最近若い世代のスタッフが加わり、順調に引き継ぎが進んで、ほっとしているところだ。一緒に働くことで世代間交流も生まれる。高齢者雇用の場では、次の世代をうまく取り入れることが重要だと感じる。</p>
---	---	---

委	員	<p>先ほど、交通機関で循環バスの話がでたが、他県では循環バスと観光資源を組み合わせている例が見られ、市民だけでなく観光客にとっても便利な移動手段となっている。そうした観光地では高齢者が観光ボランティアとして活躍できる場にもなっている。</p>
---	---	--

また秋田は喫茶店が少なく、あっても若者向きで値段も高めであるため、年金生活者は気軽に利用できない。多世帯同居の場合、生活形態が異なる若い人に気を遣いながら暮らす高齢者もいる。高齢者が気軽に立ち寄ることができ、安くコーヒーなどを飲みながら歓談できるサロンがあれば、高齢者の居場所になるのではないか。

なお、エイジフレンドリーシティという名前について、横文字でわかりにくいという意見が多く聞かれようだが、聞き慣れない言葉で逆にみんなに関心を持ってもらえるため、このまま「エイジフレンドリーシティ」の表記は残してほしい。

委員 人に役に立っていることがとても大切だが、高齢者になると周囲からあれこれ活動を止められることも多い。駅周辺の空き店舗を活用して、高齢者が裁縫など得意な分野を披露できるように工夫したり、千秋公園まで歩きやすいように工夫し、途中ベンチや運動のためのバーを置いて体力づくりをできるようにするのはどうか。駅周辺は人が集まりやすいので、高齢者が若い親世代に子育ての助言をできるようにしたり、パソコンを設置し世代間の交流を促進することも可能だ。こうした取り組みは、高齢者だけでなくあらゆる世代にとって良い効果があると思う。

会長 秋田駅周辺で行うことが重要ということか。

委員 人が集まりやすいので、駅周辺がよい。

○コミュニケーションと情報、地域社会の支援と保健サービス

委員 イベントに高齢者から足を運んでもらいたいと考えるが、どのように開催情報を伝えたらよいのかが分かりづらい。広報あきたや新聞は効果的なメディアだが、民間イベントを毎回取り上げるとは限らない。高齢者がどのようなものから情報を得て行動しているのかが、若い世代にはわかりづらい。

会長 勝手にこうするべきだという議論の前に、実際に高齢者がどのようなものを読んで行動するのかをつかむことは、確かに非常に有益だ。

委員 高齢者は広報あきたはほぼ読んでる。現在の広報あきたには、子育て支援の専用ページはあるが、同じように高齢者向け情報を発信するページを設けて相談窓口、イベントといったさまざまな

		<p>情報を載せてほしい。また見逃しても情報を得られるように、複数のメディアを活用して繰り返し伝えてほしい。</p>
委 員	員	<p>例えばシルバー人材センターを利用すると、どれくらいの金額がかかるのか、そういったメニューがあるのかという情報も、市民はわからない。高齢者向けサービスだけではなく、高齢者の関連する市民向け情報の開示も必要だ。</p>
会 長	長	<p>情報も相談窓口や問題対応だけでなく、高齢者が活躍している様子などポジティブな情報を流すことも大切なことかもしれない。</p>
委 員	員	<p>楢山で開催しているはしご市や川尻総社神社の朝市など、定期的なイベントに高齢者が参加したり、世代間の交流が生まれている例もある。</p>
会 長	長	<p>市内のそうしたイベント情報が細やかに市民に伝わっているとは限らないので、何らか工夫が必要だろう。</p>
委 員	員	<p>市の農林部でも、そういったイベントをやっていたと思うが。</p>
事 務 局	局	<p>セントラルマーケットとしては都市整備部が実施しているものもある。他に、アルヴェのきらめき広場で開催されている民間の手づくりマーケットは、不定期にもかかわらず大変好評を得て多くの顧客がいる。ネットワーキングをどうするのかという課題はあるが、少しずつ市民に広がっているようだ。</p>
委 員	員	<p>若い世代にとって、結婚や就職時は親のことについて考える節目にもなる。しかし、秋田にはどのような施設があるのか、介護のプロセスはどのようになって、どんな制度が整っているのかという情報は若い人に届いていない。ある日、突然親の介護という問題を抱えることもあり、若いときから情報は得ておく必要がある。</p>
委 員	員	<p>アンケート調査、聞き取り調査結果にもあるように、今すぐに取りかかれることは、高齢者向けの情報ページを作ることではないか。文字を見やすくしながら、さまざまな情報を広報あきたを通じて伝えていくことは可能と思うので、できれば来年度からでも取り組んでほしい。介護、防災情報や各相談窓口の紹介などは、高齢者にとって有益な情報で、特に問題や悩みごとを抱えている場合、早期に専門的な対応ができるよう広く情報提供する必要がある。</p>

会 長 | 本日はこの後、議事の（２）として、「エイジフレンドリーシティの実現のために今後取り組むべき課題」について更に絞りこむ予定であったが、予定時間を超過してしまった。本日の意見を確認すると、

- ・まずは高齢者のニーズをよく把握すること。
- ・いろいろな取り組み、サービスは立地ができるだけ一つにまとめる必要がある。
- ・高齢者が利用しやすい地域のサロンや地域通貨について検討してほしい。
- ・高齢者に関する情報の提供を実施する必要がある。

といった意見であった。この議論を踏まえて、議事（３）に移ることとする。

（３）提言書の骨組みについて（案）

資料２をもとに事務局から、提言書の骨組みについて（案）を提示した。

会	長	この骨組み（案）について、意見等がある場合には事務局に後日提出してもらうこととし、事務局にはその調整をお願いする。 今後のスケジュールとしては、第３回推進協議会において提言書をまとめることになっているが、案について事前配布可能か。
事	務	可能である。
会	長	委員から追加意見等がある場合は、事務局に提出してもらうこととし、それらと２回にわたる推進協議会での意見内容を反映させ、提言書案を作成することとする。 他に何か意見はないか。
委	員	アンケート調査結果に出ている一人ひとりの悩みを解消することこそが大きな課題であり、エイジフレンドリーシティの実現と思う。
会	長	最終的にはそのとおりだ。ただし対処療法的に行ってもうまくいかない場合もあるので、まずは全体的な視点で捉えて考えることが必要だろう。また提言書をまとめた段階で、推進協議会でのエイジフレンドリーシティへの取り組みが終わるのでなく、まずは提言は第一弾と考えて、今後何らか継続していく必要がある。
委	員	エイジフレンドリーシティ構想とは、行政が市民にやってあげ

るという切り口だけではいけない。市民を巻き込んで、市民がその気になって自ら、あるいは高齢者が自らという動きに繋がっていかなければならない。どのような提案していけるのかを、提言書をまとめた後に、じっくりと取り組み高齢者に対して働きかけをしていく必要がある。

会 長 高齢者がおかれている問題については、おおむね行政で把握されており、行政に何でもやってほしいというスタンスでは本来あるべきではない。例えば地域の問題は行政主体ではなく、地域自治という観点で考える必要があるだろう。

委 員 確かに、町内会がどんどん弱体化している。それをどうしていくべきかについては、行政と切り離して考えていく必要がある。

(4) その他

会 長 その他何か意見はあるか。

委 員 悪徳商法などに巻き込まれる高齢者の事例を身近に聞き、何とかして高齢者を見守る手立てを考えていく必要があると感じる。

会 長 今の意見も、本日の議事(1)の意見として追加させていただく。

6. その他

次回開催について、12月を予定。